第36号
令和6年3月

沖縄高専だより

National Institute of Technology,Okinawa College

目　次

1．校長より …… 2
2．20周年記念事業（式典の実施）…… 3
3．卒業生（本科５年生）へ贈る言葉 ……4・5
4．卒業にあたって ……6・7
5．インターンシップに参加して ……8・9
6．修了生（専攻科２年生）へ贈る言葉 ……10
7．修了（専攻科２年生）にあたって ……11
8．高専祭を終えて……12
9．ロボコンの結果報告 …… 13
10. 水泳部の大会結果報告 …… 14
11. 専攻科及び九州大学連携教育プログラムの紹介 …… 15
12. 就職・進学活動を終えて（本科５年生）…… 16
13. 就職・進学活動を終えて（専攻科２年生）…… 17
14. 2023年度就職・進学状況 ……18・19

独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校
〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL：0980-55-4003　FAX：0980-55-4012
WEB▶http://www.okinawa-ct.ac.jp

沖縄工業高等専門学校

校長　佐藤（さとう） 貴哉（たかや）

昨年、沖縄工業高等専門学校は創立20周年を迎えました。二十歳を迎えることが出来ましたのは、沖縄の皆様のご理解とご協力の賜物だと感謝しております。ありがとうございます。これより先も沖縄に必要な技術者の育成に尽力してまいります。

さて、高専は工学系技術者・研究者を養成する高等教育機関ですので、学生は在学中に『科学技術の基礎を学び、しっかり身に着けること』と並行して『身に着けた技術を用いて新しいモノやコトを創り出す』訓練を行います。特に世界で初めてのモノ創りやコト創りに学生が挑戦することは、技術者・研究者としての第一歩を踏み出すと言う意味で極めて重要です。学生時代に小さくても世界で初めての何かを創り出せた経験は沖縄高専卒業生の人生の先々を明るく照らしてくれるでしょう。

沖縄高専には、『創造研究』と言う科目が有ります。これは１年生から長期に亘って取ることが出来る自主研究の科目です。創造研究では、仲間を集めて研究テーマを設定し、指導教員と共に研究をスタートします。『世界で初めてのモノ創り、コト創り』に挑戦するのに最適な科目と言えます。多くの学生が創造研究の成果を援用して、コンテストや学会発表に挑戦しています。

また昨年から観光・地域共生デザインコースがスタートしました。このコースでは観光産業やあらゆる産業界が注目しているDigital Transformation（DX）を推進できる人材の育成を目指しています。社会の中に溢れている膨大なデータを利用し、高いホスピタリティー性やエンターテイメント性を有する新しいアイデアが沖縄高専生から生み出されています。新コースでは、技術の学びに加えて地域の産業、環境、歴史や経済に関することも学びます。沖縄高専の学生諸君による新しい文理融合のイノベーション誕生が期待されています。

学生の挑戦をサポートする最強ラボが2024年３月にオープンしました。名前は『スタートアップラボ』。学生が自由に使える金属３Dプリンタや３Dスキャナ、人工知能の分野で有用なGPUサーバーも配置されました。ここでは、学生の研究開発成果を利用した『学生起業家のスタートアップ』もサポートします。

沖縄高専はこれからも『自らのアイデアと技術で新しいモノ創りコト創りに挑戦する学生』のサポートをしていきますので、学生はいろんなことに挑戦してください。そして地域の企業や行政の皆様も是非高専に足をお運びいただき、学生、教職員と一緒に沖縄で新しいモノとコトを創り出しましょう。沖縄高専は沖縄に必要な技術者・研究者を地域の皆様と共に育てていきたいと願っています。

創立20周年記念式典等を挙行しました

令和５年９月16日、創立20周年を記念した植樹式、記念式典等を挙行しました。

植樹式では、創立20周年及び高専制度創設60周年を記念し、佐藤校長の挨拶及び高良鉄美参議院議員からの祝辞の後、来賓による「コガネノウゼン」（花言葉：栄光）及び「モチノキ」（花言葉：時の流れ）の植樹及び記念撮影が行われました。

記念式典では、佐藤校長が「創立20周年を迎え、教職員一同決意を新たにし、我が国の産業や地域社会を担う技術人材の育成と、産業界の振興・発展に一層貢献してまいる所存でございます。本日のこの式典が、学生諸君にとって、沖縄高専の学生としての自覚と誇りを高め、自らの目標に向かって歩む契機となることを願います。」と述べ、来賓の梅原弘史 文部科学省高等教育局専門教育課長、水野敦 内閣府政策統括官（沖縄政策担当）、玉城デニー 沖縄県知事（照屋義実 副知事代読）、渡具知武豊 名護市長、西田睦 琉球大学長から祝辞が述べられました。

また、記念式典の後に記念講演会が行われ、谷口功 国立高等専門学校機構理事長（演題：世界に飛躍する高専～沖縄高専創立20周年を経て～）、義田寛 日本トランスオーシャン航空株式会社 執行役員 整備部門長（演題：沖縄におけるJTAの役割と航空機整備について）、高橋隆司 MRO Japan 株式会社 代表取締役社長（演題：日本におけるMROビジネスについて）による講演がありました。

その後、代表学生及び代表教員による学校活動紹介や記念祝賀会を開催し、当日は盛会裏に終えることができました。本校が創立20周年を迎えることができたのも、ひとえに本校の教育活動に携わっていただいた多くの皆様からのご支援の賜物であり、心より感謝申し上げますとともに、これからも本校の理念である「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。」に基づき、取り組んで参ります。

卒業生（本科5年生）へ贈る言葉

機械システム工学科

眞喜志 治（ただの教員）

今となっては理由が定かではなく、皆さんの記憶にも残っていないと思いますが、皆さんが1、2年生のときの学科担任も務めていました。最初の2年間を間近で見ることで、「こんなクラスになるのだろう」とか、「こんな風に成長するんだろうなぁ」などと想いを巡らせた日々が懐かしく思い出されます。入学して間もない頃、いろいろなことを思い描いて毎日を過ごしていたような気がしていますが、まさか2年目に世界的なパンデミックに見舞われることになるとはとても想像できなかったことでしょう。誰もが混乱する中、状況を正しく理解し、受け入れることを強制的に求められる事態となりましたが、個人差はあれ、各々ができる範囲で柔軟に対応できたからこそ今があるのだろう、と思っています。皆さんの成長においてとても重要な時期に、それまでと全く異なる過ごし方を求められる日々が続きましたが、コロナ禍を経験することで得られたものはあった、と思っています。僕のような引退した者でも、新たな視点で物事をとらえることができるようになったのですから、大きな可能性を持つ皆さんなら尚更でしょう。一方で、コロナ禍を経験することがなければ得られたはずのものもあったと思います。時間を戻すことはできませんが、ここ数年の経験やその中で得たものは皆さんの人生において意味のあることだらけだったと受け止めて、これから直面するであろう様々な出来事の糧となっているのだと極めて前向きにとらえてもらえたら、と願っています。

幾分、数は減ってしまいましたが、5年という歳月を共に過ごした仲間は、とても貴重な存在だと思います。卒業後は、今まで以上の関係性を築き、お互い切磋琢磨して、成長しつづけてくれるものと期待しています。

情報通信システム工学科

高良 秀彦

情報通信システム工学科5年生の皆さんは、これまで情報通信分野に関して、電気回路や半導体などのハードウェアおよびプログラミングやデータベース等のソフトウェアの両方を学んできました。皆さんが5年間、コロナの影響を受けながら、それらを努力して学んで習得してきたことは本当にすばらしいことだと思います。

努力することのメリットは主に二つあると思います。一つ目は、自分のスキルを伸ばせることです。皆さんは、本学科で5年間努力することで情報通信関連の知識と技術を習得しました。これらは、皆さんの今後の進路において大きな力になるでしょう。二つ目は、努力した経験が自分を助けてくれることです。今後、新しいステージで壁にぶつかることがあると思います。そのとき、高専での経験を思い出してください。一人で努力したことも、仲間と一緒に挑んだこともあると思います。家族や周りの方々の助けを得ながら取り組んだこともあると思います。そのときの経験を思い出して、今後も前向きに自分の背中を押してあげてください。これまで沖縄高専で学んできたことに自信を持って、希望の進路へ向かって一歩ずつ進んでください。

もう一つお願いがあります。卒業できるのは、いつも支えていただいた保護者の方々のお陰ですので、感謝の気持ちを伝えてください。また、ともに過ごしたクラスの仲間にも感謝してください。皆さんは、学業で助け合いイベントでも協力しあう、とてもまとまりのあるクラスでした。別々の道へ進んだ後も、この素晴らしい関係が続くことを願っています。

皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。

メディア情報工学科

與那嶺（よなみね） 尚弘（たかひろ）

卒業おめでとうございます。高専生活で何が一番記憶に残っているでしょうか。高専受験から卒業までの日々を思い出してみてください。緊張の中で受験に臨み、期待と不安の中で入学式を迎え、中学校とは違った雰囲気に戸惑いつつ、いつの間にか高専生活に馴染み、あっという間に時間が過ぎたのではないでしょうか。みなさんの世代は新型コロナウイルスの影響で日常生活が一変し、外出を控える生活が日常となり、授業は対面から遠隔へ切り替わり、学校行事だけでなくすべてのイベントが中止となり、新型コロナウイルスの影響を強く受けてしまいました。しかし、その中でも通常の学校生活に戻す努力と工夫を重ね、４年生では対面でのインターンシップが解禁となり学校行事も再開し、さらに５年生での就職・進学活動を経て、いよいよ卒業を迎えました。みなさんが過ごしてきた高専生活が良き思い出になることを期待しています。

話題は変わりますが、エンジニアの世界では高専出身者は目立つ存在です。それは高専生が同世代の人口の約１％という少ない人数にも関わらず多くの高専出身者が活躍しているからです。全国の高専で専攻科１期生が誕生した約30年前、バブル崩壊という原因もあったかもしれませんが、高専生は技術力を持っていても高校生と同じ給与体系という企業も珍しくありませんでした。しかし、高専出身の先輩方の活躍で新卒採用における「高専枠」が当たり前になりました。みなさんも先輩方の後に続いて活躍し、高専の知名度を高めてほしいと願います。とは言っても、心身に無理して頑張れ！という意味ではありません。環境に慣れるまで焦らず慌てず、新しい生活を楽しんでください。近い将来のみなさんの活躍を楽しみにしています。

生物資源工学科

玉城（たまき） 康智（やすとも）

生物資源工学科５年生の皆様、卒業おめでとうございます。学科教員を代表し担任からメッセージを送ります。思い起こせば３年前、皆さんが３年生に進級すると同時に縁あって私が担任になりました。今年の卒業生は、１年生で高専のイベントを一通り経験し、新型コロナの制限が解除された５年生になると、後輩達に高専のイベントを伝える大切な役割をもった学年だったと思います。今年度、４年ぶりに開催された体育祭など、皆さんは本当に頑張っていたと思います。また、私にとって印象深かったイベントは、コロナ禍の影響で延期になっていた研修旅行の実施でした。参加学生全員が北海道の企業を訪問し自由行動を楽しみましたが、体調不良者もなく無事沖縄に帰ったのは皆さんの日頃の新型コロナ感染防止に対する理解があってのことだと思います。また、先日行われた卒業研究発表会でも全員元気に発表することが出来ました。今年の５年生はチームワークのとれた学生だったと感じています。卒業式もこの調子で、皆さん元気に参加できたら嬉しいです。

皆さんは、これから進学・就職でそれぞれ別の道を進むことになります。それでも高専で出会った仲間達は、何か困難にぶつかった時や判断に迷った時には必ず味方になってくれます。それぞれどんなに忙しくても、近くに行った時には声を掛け合い近況報告するなど、交流を忘れないで下さい。そして沖縄高専にも、時間を見つけて遊びに来て下さい。皆さんの成長を楽しみにしています。改めまして、卒業おめでとう！

卒業（本科5年生）にあたって

機械システム工学科
我那覇（がなは） 綸（りん）

卒業と聞くと卒業ソングを連想したり、友達との思い出に涙したりと今までは終わりに向かうイメージでした。しかし、今後はどのように研究を進めていこうかと考えたり、進学先の勉強を少しずつ進めていったりなど先のことをどんどん考えていて、卒業というのは一つの通過点として捉えるようになりました。

私の進学先は九州大学工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムコースで専攻科の2年間と九州大学の基礎融合学科に3年次編入の形で進学します。研究に早くから着手できる環境を提供しているプログラムで令和5年度から始まり、私はその2期生になります。高専の環境に馴染めず、勉強で思い詰めていた時もありましたが、生活を共にしていき勉強を教え合った友人・クラスメイトたちがそれぞれの目標や夢に向かって前進している姿に自分も励まされ頑張ることができました。

このように進学できたのは、友人・先生そして親の支えがあったからで、今回の卒業にあたってのこの作文も書かせてもらうまでになりました。

今後、研究活動や進学先での新生活などで大変なことも増えると思いますが、常に自分の目標と周囲の人への感謝を忘れずに、普段の生活が楽しいと思えるよう試行錯誤しながら日々過ごしていきたいです。

機械システム工学科
迫田（さこだ） 悠汰（ゆうた）

入学してから5年が過ぎ、気づいたら卒業する年になっていました。入学当初は不安しかありませんでした。実際に学生生活を過ごしていくうちに生活面での不安は消えましたが、勉強面での不安が来る日も来る日も襲ってきて大変でした。ですが、無事に高専を卒業できそうなのでほっとしています。（執筆日：2024 年 1月）

この5年間は、コロナ対応での遠隔授業、授業についていけない科目など苦しい日が多々あり「留年しそう。」と思いましたが、助け合って共に成長した頼もしい友人や先生方の協力により乗り越えることができました。また、5年間という時間も友人との信頼関係を深め、楽しい思い出ばかりが思い返されます。

卒業後は、自分自身が目指していた会社に就職することができました。なれない場所での生活や社会人になることに対しての不安がありますが、新しいことにチャレンジができることにワクワクもしています。高専の5年間で学んだ知識と経験を活かせるよう努力したいと思います。

最後になりますが、これまで協力・応援してくださった先生方や友人、家族に感謝申し上げます。これからも友人や家族には頼ると思いますが、その際はよろしくお願いします。

情報通信システム工学科
伊川（いがわ） 知花（ともか）

高専に入学してからの5年間、すごくあっという間に月日は流れ、もう卒業してしまうのかと、とても驚いています。

入学当初は新しい環境になれず、不安な気持ちを抱えたまま学校生活を過ごしていました。そのまま2年になり、コロナ禍の影響で遠隔授業も始まって、実家で過ごす日々が楽しすぎて、「学校に戻りたくない、このまま辞めたい」と考えていたのをすごく覚えています。それでも、いざ登校してみると素晴らしい友人たちに恵まれ、色々なところに遊びに行ったり、一緒に課題やレポートに追われたりなど忙しくも充実した学校生活を送ることができました。他にも高専祭実行委員をさせてもらったり、赤点取って怒られたりなど、振り返れば良いことも悪いことも様々なことが思い出されますが、高専で過ごしたこの5年間は、今の自分を形作る大事な糧となっているように思えます。ここで得た学びをこれからの未来に生かして、もっともっと成長していこうと思います。

最後になりますが、支えてくださいました先生方、一緒に歩んできた友人たち、そして大好きな家族に心より感謝申し上げます。

情報通信システム工学科
上原（うえはら） 彩來（さら）

振り返ってみると、高専での5年間はあっという間でした。入学した頃は新しいことに挑戦できる期待と新しい環境でやっていけるかという不安でいっぱいだったのを覚えています。ただ、そんな心配は杞憂に終わり、周りの人と助け合いながら無事に高専生活を送ることが出来ました。その間には遠隔授業となり大変だったこともありましたが、色んな人に支えられなんとか乗り切ることができました。支えてくれた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、卒業する 16 期生の皆さん、高専での5年間はどうでしたか？今日まで数え切れない程の思い出があると思います。中にはやり直したいと後悔したり、思い通りにいかず悔しいと感じたり、楽しさと同じくらい苦しさもあったはずです。ただ、次に後悔しないための経験となり間違いなく自分を成長させてくれたと思います。本科を卒業し、それぞれの進路に進むとき、高専のことをたまに思い出しながら頑張っていきましょう。

この5年間はとても充実していて、高専に入学して良かったなと改めて感じています。

最後になりますが、学校生活を支えてくださった先生方、友人、両親、関わってくれた全ての方に感謝を申し上げます。ありがとうございました !!!!

メディア情報工学科

福井（ふくい） れをん

５年という長い期間のはずの高専生活は本当にあっという間でした。

コロナが流行ってしまって一年のほとんどが遠隔授業になってしまったことも、文化祭もインターンシップも、しっかり記憶に残っているのにすごく遠い出来事みたいです。

振り返ってみるとあれもこれもやっておけば良かったと思うことが多く、コロナのせいにしてそこから逃げてしまったことを後悔しています。

就職が早めにできるという適当な理由でなんとなく入ってしまった高専は、入学前に抱いていたイメージとは全然ジャンルが違っていて、周りの人が支えてくれなければ絶対に単位を落として留年していたと思います。つらいことも数えきれないくらいたくさんあり、一年生の頃から何度も辞めたいと思っていました。でも友人たちと出会って学んだり、遊んだり、苦しんだり、いろいろな経験が積めて高専に入ってよかったと思えます。これからはその友人たちと頻繁には会えなくなってしまいますが、お互いになんだかんだ耐えた高専生活の経験を活かして頑張れたらなと思っています。

５年間支えてくださった教職員、友人、家族の皆様、本当にありがとうございました！

メディア情報工学科

仲本（なかもと） 兼吾（けんご）

卒業研究も終わりほっと一息つくと、入学当初は長く思えた５年間の高専生活もいよいよ幕を閉じようとしています。この５年間で、自分の知らなかった技術や、高専らしいユニークな仲間達と出会いました。そのおかげで、今までの私にない価値観を知ることができ、考え方の幅をひろげることができました。

初めての寮生活から始まった高専生活でしたが、すべてが順風満帆だったわけではありませんでした。特に２年生の時には、流行病の影響で遠隔授業になってしまうなど、様々な活動にしばらく制限がありました。しかし、そんな中でもプログラミングの大会に同級生や後輩と出場することで、貴重な経験を積むことができました。また、それらを通して自分の興味のあることを見つけ、就職活動でも無事にその分野で活躍できる会社に入社することができました。

これからは、社会人として新しい道を歩んでいくことになります。今まで学んできたことに自信をもって、これからの人生に挑戦していきたいと思います。この５年間でお世話になった先生方、友人達、そして私の成長に関わってくれた人々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

・社会人になって人生を歩む
・寮生活など高専で身に着けたことを活かして頑張っていきたい

生物資源工学科

安里（あさと） 匡平（きょうへい）

私の高専５年間はあっという間でした。つい先日入学式が終わったと思ったらもう卒業です。しかし不思議なことに思い返してみると本当にたくさんのことがあったなあと思います。テスト、寮生活、高専祭、卒研、テスト etc... 数々の死線を超えてきました。その都度助けてくれた周りの人たちには感謝でいっぱいです。

私たちの高専生活で最も印象が強かったのは新型コロナウイルスの影響です。約１年半もの間遠隔授業で創造研究や部活動もすべてできなくなり友達とも会えない時期ですごくつらかったのを覚えています。遠隔授業期間はほとんど一人で釣りに行った思いでしかありません。しかしコロナ禍だからこそ身についたスキルもありました。基本的に家で一人なので、授業時間の把握や課題の管理する能力が身に付きました。また、パソコンのチャット上でグループのメンバーとうまくやり取りをしながら作成する課題などもあり、そういった課題のおかげでスケジュール管理や情報共有がかなり上達したなと思います。今後も自分がイメージしていた未来と状況が大きく違ったとしてもその中で自分は何を得られるのかを都度考えて自身の成長につなげていきたいと思います。

生物資源工学科

浅野（あさの） 光咲（みさき）

「卒業まで５年間！？ほとんど小学校じゃん！」と戦慄したのが５年前のこと。小学校生活の６年間が思い返せば一瞬だったように、高専での日々も瞬く間に過ぎていき、気づけば卒業です。入学当初は学生生活のあまりの忙しさに、これがあと５年も続くのか…と気が遠くなることもしばしばで、その度に普通高校に進んだ友人たちを羨みました（本科１年生時、あの膨大な量の課題と実施科目 10 教科越えの定期試験、というダブルパンチを乗り越えられたのは奇跡だと思います）。高学年になると、今度は県内外の大学で活躍している友人らが眩しく思えて、葛藤の日々を過ごした５年間でした。けれど、改めて振り返ってみると、高専だからこその経験や学び、そして個性豊かな友人たちや先生方との出会いといったそれら一つひとつが、現在の私を形作る大切な一部分となっているのがよく分かります。中学３年生のあの時沖縄高専を選択して良かったと、卒業を目前に控えた今、心からそう思います。

私は本科卒業後、１年生の頃は「絶対に行かない！」と思っていた専攻科に進学します。これで、小学校の６年間よりも長い７年という年月を沖縄高専で過ごすことになりました。絶対なんて無いんだな、と実感すると同時に、５年間で考え方も随分変わるものだ、とどこか他人事のように感じている私がいて、これから先の人生で自分がどう変化していくのか、楽しみに思っています。これから専攻科で過ごす２年間を自分にとっての正解に出来るよう、精一杯頑張ります。

最後になりますが、長いようで短かったこの５年間、私を支えて下さった先生方、愉快な友人たち、同級生や生物資源工学科のみんな、そして家族に感謝申し上げます。ありがとうございました！

インターンシップに参加して

機械システム工学科
平良 祐大（たいら ゆうた）

私は e.Team ANA のインターンシップに参加させていただきました。e.Team ANA は ANA（全日本空輸株式会社）が保有する航空機の点検・整備を行う整備部門7社のことをいい、今回は LTC、BTC、ETC、CTC の4社をメインにインターンを行いました。

取り組んだ内容は座学、紙飛行機を用いたグループワーク、整備会社4社の見学、実習を行いました。座学では ANA に関する理念や事業について学び、グループワークでは紙飛行機をより長い距離を飛ばす対決で航空機が飛ぶ仕組みの理解を深めることができました。整備会社の見学では各社の雰囲気、航空機の整備されている様子や各社の詳しい業務内容を知ることができました。実習では部品の取り外しを行う基礎実習と想定された状況での整備実習を行いました。

インターンシップを通して、これまで学んだ航空技術者プログラムや流体工学の内容を生かせる機会になりました。整備のマニュアルを見た際にほとんど英語が使われていて、英語の勉強がまだまだ必要だと感じました。安全にお客様を運ぶ責任感のある整備士のような人になれるように日々精進していきたいです。

機械システム工学科
上地 健之輔（うえち けんのすけ）

私はインターンシップを授業の一環として参加するだけのものだと思っていました。それまでの私は、特に目標や将来を考えず、だらだらと日々を過ごしていました。そんな中で参加したインターンシップは私の中でかけがえのない経験となりました。実際に組織の一員として実務や企業の方針を学びそれを実践することで企業の在り方や社会人になるという意義を深く理解できました。また、内地の企業に参加することで日本各地からインターンシップ生が集まり、コミュニケーションをとっていく中で人間性や郷土性の違いに触れることで新たな価値観を発見することができます。2つの異なる業界の企業での参加を通じて、吟味の余地のある企業を見つけ、将来の就職活動において適切な判断材料として役立てることが出来るようになりました。これらのことから、インターンシップは自身の将来に大きな影響を与える大切な活動であるということを参加して認識することができました。インターンシップに参加する際は、将来に関わることをしっかりと頭においておき、自身に合った、興味のある企業に参加することが大切だと思います。

情報通信システム工学科
吉見 成（よしみ なる）

私は、全部の進路を見てみたいという思いから企業・大学・研究所の3つのインターンシップに参加させて頂きました。企業では、KDDI アジャイル開発センターという自社システムや顧客の欲しいシステムを作る会社に行きました。設立が 2019 年と若く、現在の CEO の方が創設者ということもあって情熱が凄かったです。インターン中はスクラムという手法を通じて開発を行いました。5日と短い期間でしたが定期的な情報共有が上手く機能し、結果的にいいチームワークが築けました。

大学では、九州大学に行きました。半導体チップの製造に関する研究を体験しました。

インターン中は熱処理のシミュレーションを通じて仮説を立て、結果からより高度な次元から考える工程が楽しかったです。大学院に行く人が多く、就職先も研究分野を活かす人が多かったです。

研究所では、国の研究所である NIMS に行かせて頂きました。NIMS では半導体基盤に対する熱対応を観察しました。シリコンの特性を調べるのには精密な作業が必要で、集中力が必要でした。

インターンのアドバイスとして、本気で自分の将来と照らし合わせるのが本当にオススメです。就職に限ると4年の冬から早期選考など早いものもあるので、進路に悩む人は是非1日でも早く進路を考え始めちゃってください！

情報通信システム工学科
上原 龍之介（うえはら りゅうのすけ）

情報通信システム工学科4年の上原龍之介です。今回、私は日立ハイシステム 21 様にインターンシップで伺いました。インターンシップ前に行ったこととして、インターンシップ対象の企業についての情報収集を行いました。初めに先生方への相談やインターンシップ企業説明会などに参加し、アドバイスを受けながら企業を絞り込み、その中から自分が興味を抱く事業を展開している企業様を選ばせて頂きました。

インターンシップに参加することで、学校生活では得ることができない社会人としての礼儀や作法を学ぶ良い機会となりました。業務面では、目的を達成するための手順やフローを実務的に行うことで詳細に理解することができました。私がインターンシップを通して意識していたことはコミュニケーションです。グループでの作業や先輩からのアドバイスを通じて、会社という大きな組織での仕事におけるコミュニケーションがどれほど重要であるか学ぶことができ、私としては最も成長できた部分であったと感じました。

大都市での慣れない電車通勤や生活など大変なことはありましたが、高専では普段経験できないことができ、これからの将来のキャリアにも大いに役立つ非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

メディア情報工学科

椎名（しいな） 咲太郎（さくたろう）

こんにちは。メディア情報工学科の椎名咲太郎です。自分は、熊本で高校３年間を過ごし、４年次編入で高専に編入学しました。初めてのインターンということもあって、非常に楽しみにしていました。８月下旬、私は九州大学融合基礎工学科のインターンシップに参加しました。融合基礎工学科では、模型都市に油を飛ばし、油の分散量や場所を考察する風洞実験を見学させていただきました。大学院生の方が、翌週にイタリアでの学会発表があるため、それの練習も兼ねたマンスリーミーティングにも参加したのですが、すべて英語での会話でなんとかついていけた状態でした。およそ２週間後、IT をメインにした民間企業でインターンに参加しました。詳しいことは記述できませんが、ESP32 と呼ばれるマイコンを使い、水産養殖で働く現場の方のサポートをするといったものを体験しました。

おそらく、今後インターンシップに参加される方もいらっしゃると思います。このインターン以外でも、自分の知らない世界に足を踏み入れると、自分の知識のプラスになるだけではなく、自分自身の心や精神の成長にもつながります。現場の方から感化され、自分自身で主体的な行動をとることが自然と身に付きます。この主体性を日常生活にも応用し、自分自身の向上にも繋げることは可能です。行動する１歩を乗り切ったらあとは簡単なはずです。

メディア情報工学科

嘉手苅（かでかる） 空（そら）

私は夏休みに４日間のインターンシップに参加しました。

私が参加したインターンシップでは、会社のエンジニアの方から直接指導を受けながら、実際にその会社が開発を行ったアプリを題材にアプリ開発を学ぶことができました。実際に開発したアプリを題材にしていることもあり、チーム開発における git の操作や会社のデザイナーが考えたデザインを基にしたアプリの UI（ユーザーインタフェース）の実装、個人開発ではあまり意識しない細かい部分の実装について詳しく学ぶことができました。アプリ開発以外にもユーザー目線のデザインをする上で重要なことやアプリ開発におけるテストの重要性についての講演があり、貴重な体験になりました。

また、会社の雰囲気や社風についても知ることができました。インターンシップ中には社員同士の雰囲気を知ることができ、インターンシップ後の懇親会では、社員や社長に直接会社について質問をすることができました。

このインターンシップでは、技術的なスキルだけでなく、実際の業務やチーム開発で重要なことを学びました。将来的にもこの経験を活かし、成長していきたいと思います。

生物資源工学科

金城（きんじょう） 詩音（しおん）

私は、この夏に旭化成メディカル株式会社のインターンシップに参加しました。

正直に言うと、インターンシップに応募する時には高専を卒業してすぐに就職するという考えはありませんでした。ですが、インターンシップを終えた今は卒業後の進路として就職を真剣に考えるほどになりました。

私の考え方が変わった大きな要因は、自分自身が働いている姿を具体的にイメージできたことにあると思います。

インターンシップでは、担当の上司やインターンシップ生と一緒に業務や課題を行い、その過程で技術や高専卒の先輩方の働いている姿、実際の業務などたくさんのことを体験し学ぶことができました。

業界研究会や講演会などでも企業の話を聞くことはできますが、実習を通して社内の雰囲気を直に感じ、自分がこの企業にあっているかどうかや働いた時のことを具体的にイメージできるのは、インターンシップでしか得られない経験だと思いました。

インターンシップは、就職を考えている人もそうですが、私のように進学を考えて高専に入学してきた人にとってもたくさんのことを学ぶことのできるとてもいい機会になると思います。ぜひたくさんの企業のインターンシップに参加してほしいです。

生物資源工学科

長浜（ながはま） 晴（そら）

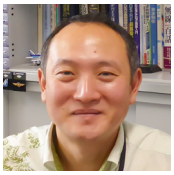
生物資源工学科４年の長浜晴です。４年生の夏休みに一週間、ニチレキ株式会社さんのインターンに参加させて頂きました。普段、高専では生物について勉強しているのですが、今回のインターンはアスファルトや道路舗装に関するものでした。違うジャンルのインターン参加は、新しいことを学び、自分が成長できた良い経験だったと感じています。最初はわからないことだらけでしたが、他の分野に挑戦することで柔軟性が広がり、新しいスキルや知識を身につけて、自分のできることが広がりました。また、他のインターン生と協力することで、いろんな考え方やアイディアに触れることができました。特に、自分の得意は何なのか、反対に不得意は何なのかを自覚し、将来についてもう一度考え直すいい機会になりました。

これからインターンシップに参加する予定のある方は、早めに準備して望んで欲しいです。自分が参加する企業に関する情報はもちろん、自分が今何が好きで将来何をしたいのかなどの自己分析などを行うことでスムーズに進めることができると思います。インターンシップは普段の学校では得られないような特別な経験をすることができるので、悔いのないようにしっかりとインターンに参加して頂きたいです。

修了生(専攻科2年生)へ贈る言葉

機械システム工学コース
眞喜志（まきし） 隆（たかし）

専攻科機械システム工学コース２年生８名の皆さん卒業おめでとうございます。学校生活ではコロナ禍で十分な学修や特別研究、課外活動が送れなかったかもしれません。これからもコロナ禍での社会状況や産業の変化は決して小さいものではないと思います。皆さんはそれぞれに違う進路に進むことになりますが、就職進学で進んだ先でもいろいろな苦労があると思います。これからの新しい進路でも、本校での経験を生かして大いに活躍していくことを期待します。どのような世界に進むとしても、これまでに吸収した学修を基礎に新しい技術や知識を吸収し、いろいろなことを経験して新しい世界を作っていく若い技術者として進んでいってください。卒業おめでとうございます。



電子通信システム工学コース
谷藤（たにふじ） 正一（しょういち）

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。高専生活の７年間、皆さんにとって長かったですか？ それとも、あっと言う間でしたか？ 専攻科での２年間は、コロナ禍も明けて、特別研究などの実験・実習も思うように進められたものと思います。これまでの日々を過ごす中で、様々な技術や情報を利用して、社会の要求や課題を解決できる能力や、やるべきことのスケジュールや進捗を管理できるプロジェクト遂行能力、そしてチームで活動できる能力も磨かれたものと願ってやみません。これから始まる社会人生活でも、これらの学びはまだまだ続きます。立ちはだかる難関な壁にも果敢に挑戦していってください。継続的な自己研鑽が自らを成長させ、スキルの幅を広げることにも繋がります。学び続ける努力を忘れずに、常に自分自身をアップデートしてください。高専の生活で培った能力を信じ、前に向かって進んで行きましょう！ 皆さんの更なる飛躍に期待します。　・・・ー・

情報システム工学コース
玉城（たまき） 龍洋（たつひろ）

専攻科修了おめでとうございます。また学生、学校を支えていただいた保護者の皆様にも学科教員を代表してお祝いを申し上げます。７年間の高専生活の中で約３年間の新型コロナウイルスの対応があり、苦労することも多かったと思います。その状況の中でも、皆さんの努力と熱意で無事に全ての課程を修了できたことを嬉しく、誇らしく思います。

新型コロナウイルスが落ち着きを見せましたが、その間に皆さんが学んだ情報工学の世界は大きな変革の時代を迎え、人工知能という巨大な黒船が登場しました。思っている以上に巨大です。多くの職業が人工知能に取って代わられるでしょう。この時代に求められることは問題を切り分けられる分析力と思考力です。今後はただ知識や技術を蓄えるのではなく、その活用に励み、思考を重ね、この変革の時代に飛躍することを期待します。でも、こころの余裕は一番大切です。無理しすぎず、余裕をもってこの時代を楽しんでください。

生物資源工学コース
玉城（たまき） 康智（やすとも）

生物資源工学コースの皆様、専攻科修了おめでとうございます。学科教員を代表し皆様の門出を心からご祝福いたします。皆様は専攻科で過ごした２年間、新型コロナの制限が解除され、徐々に対面授業や学内イベント、就職・進学活動、特別研究など、コロナ禍前の日常を取り戻した学年となりました。私達教職員は基本的に今もマスク着用ですが、マスクを外した専攻科学生は大人になったように感じます。しかし、まだコロナ禍の影響を払拭できない状況の中、皆様が「高い自主性」を発揮し、目の前の課題に一生懸命取り組んだ結果、専攻科を修了し「学士」を取得することになりました。皆様にとって専攻科の修了は、ひとつの通過点であり、新型コロナも皆様の人生ではひとつの出来事になりつつあります。この社会の変化に立ち向かい学位を取得したことを自信に今後の人生を歩んで下さい。これからの皆様のご活躍を楽しみにしています。

修了（専攻科2年生）にあたって

機械システム工学コース

當間（とうま） 誉朗（たかあき）

私が沖縄高専に入学してから７年が経過しようとしています。なんとなく機械楽しそうという思いで入学した当初は５年もこの学校にいるのかと思っていましたが、気づけば専攻科に進学し７年間も沖縄高専にお世話になっていました。過ぎてみればあっという間で、いまではレポートや試験で大変だった記憶も忘れ、とても楽しい学校生活を過ごすことができたと思っています。本科ではロボット製作委員会に入部しロボット製作に取り組みました。私たちの代では大きな成果を残すことはできませんでしたが、先輩や同級生、後輩と協力しながらロボット製作に取り組んだ日々はとてもいい経験になったと思っています。専攻科に入学してからは特にあっという間の２年間で、人数が少なくなったり、他コースの授業を受けることができたりと少し新鮮な気持ちで学校生活を過ごすことができました。４月からは慣れ親しんだ沖縄高専を離れて新しい環境での生活がスタートしますが、これまで沖縄高専で経験してきたことを生かして頑張っていきたいと思っています。最後に、共に過ごした友人たち、授業や研究で熱心に指導してくださった教職員の皆様、育ててくれた両親に心から感謝を申し上げます。

電子通信システム工学コース

久場（くば） 悠誠（ゆうせい）

2017 年に入学してから気が付けば７年が経ちます。本科入学当初は５年間長いなと感じていましたが、年々時間が経つのが速くなり本科卒業そして専攻科修了の年となりました。

特に専攻科に入学してからの２年間は充実しており時間があっという間に過ぎました。専攻科の授業で取り組んだ地域課題の解決では、沖縄 Taco スパ !! を開発し、短い期間で商品化までたどり着くことができました。商品開発では、名護こども食堂と東京学芸大学と共同で行い、様々な人の価値観を感じ視野を広げることができました。開発するだけではなく、商談を行い販売し、消費者の意見を基に改良を行うという一連のプロセスを学生で体験できたことはとても実りある経験となりました。開発に協力していただいた方、購入していただいた方、学校として支えてくださった教職員の皆様、本当にありがとうございました。

４月からは県内企業に就職し社会人として新たな環境での生活が始まります。高専７年間で学んできた知識や課題解決能力を活かして頑張っていきたいと思います。親身に相談にのってくださったり温かいご指導をしていただいた先生方、一緒に頑張ってきた友人、ここまで育ててくれた両親に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

情報工学コース

金城（きんじょう） 宏季（ひろき）

今年で沖縄高専や寮での生活も７年経つということで、実家よりもこっちの方が家という感覚さえ生まれる今日この頃です。親元離れた新生活、友達関係や勉強など多くの不安を抱えて始まった７年間でした。実際自分も学校生活で嫌なことや大変なことがありましたが、そんな困難を乗り越え、楽しい思い出として修了を迎えることができたのは、少し癖が強くて、でも個性豊かな友人たちのおかげでした。友人たちには本当に感謝しています。なので、在校生の皆さんにも５年間を共に過ごし切磋琢磨しあえると共に、卒業後も関わり続けるかけがえのない存在である高専での友人をなによりも大事にしてほしいなと思います。

また、私が高専生活を通して感じたのは、「“ 好き ” を大事にする」ということの重要性です。他の高専生が好きなことに全力な姿はとても魅力的だったし、その技術力は目を見張るものがありました。高専では応援・協力してくれる人たちがたくさんいますし、自分のやりたいことに挑戦できる環境が整っていると思うので、皆さんも “ 好き ” なことに全力で挑戦していってほしいと思います。

最後になりますが、支えていただいた先生方、そして高専で関わった全ての人に感謝を申し上げます。ありがとうございました！

生物資源工学コース

外間（ほかま） 裕也（ゆうや）

入試の面接で「アレルギーの研究がしたいです。そのために高専を進学先に選びました。」と試験官の先生方にお伝えしたことを今でも鮮明に覚えています。2017 年春に沖縄高専に入学してから、もうすぐ７年の月日が経とうとしています。この７年間は本当に色々なことがありました。コロナ禍で大変な時期もありましたが、周りの方々に支えられながら、有意義な高専生活を過ごすことができました。

今、私が取り組んでいる卒業論文のテーマは「アレルギー」です。自分のやりたかったアレルギーの研究に取り組むことができて本当に嬉しく思います。研究を始めた当初は上手くいかないことだらけで不安でした。それでも試行錯誤を繰り返し、研究を始めて３年目の今年、なんとか良い結果報告をすることが出来ました。この経験のおかげで人として、研究者として大きく成長できたと思います。今後の人生において、この経験が大きな助けになると信じています。

修了後は広島大学大学院医系科学研究科に進学し、引き続きアレルギーの研究に取り組みます。私の目標である「アレルギー治療薬の開発」に向かって努力し続けたいと思います。

最後になりましたが、池松先生をはじめ、ご指導、ご協力いただいた皆様、支えてくれた両親にこの場を借りて感謝申し上げます。

高専祭を終えて

第18回高専祭実行委員長を務めさせていただきました、機械システム工学科４年の小森堅です。

今年度は10月28日・29日の二日間で開催されました。

「映画の世界」を全体テーマとして学生全員で装飾を行い、構内全体を「映画の世界」に染め上げました。

縁日・屋台・お化け屋敷のクラス企画や、ステージトラックを用いた野外での学生ライブ・ダンス・SPライブなど様々なイベントで学生はもちろんのこと、ご来場くださった約1500名の方々に存分に楽しんでいただけました！大成功！

その中でも特に力を入れたのが、初開催となったのSPライブイベントです。

最高の高専祭を作り上げたいと言う熱意で実行委員女子学生２名が中心となって企画し、先生・先輩方をはじめとする様々な方のご協力のもと、沖縄のトップアーティスト「かりゆし58」のメインボーカルの前川真悟様と、沖縄を代表するギタリストの前濱yoshiro様をお招きしての当校の初SPライブイベントを開催することができました。

また、広報では高専祭のHPとSNSアカウントを開設し、SPライブや高専祭のプログラム周知、カウントダウン等を行いました。当日は高専祭の様子をライブ配信し、盛り上げに活用しました。インスタにはアーカイブも残っているので、ぜひご覧ください！（アカウント：@nitoc_18_fes）

さらに屋台では、電子決済システムを情報システム工学科３年生の男子学生がプログラミングを用いて０から開発し、例年課題であった屋台混雑を緩和させることに成功しました。学校生活を通じて学んだことを存分に発揮する機会となりました。

僕たちはこの１年、最高の高専祭を実施するために試行錯誤を繰り返してきました。ですが企画段階から実施に至るまで次から次へと課題が浮き彫りになり、不安やプレッシャーに何度も押しつぶされそうになりました。

ですが、学生のみなさん、先生や事務の方々、スポンサー企業のみなさまの気持ちを胸に実行委員同士で励まし、高めあい、最後まで走り抜けることができました。

たくさんのご支援、本当にありがとうございました。

過去一頼りない実行委員長だったかと思いますが、それでも最後まで必死にサポートしてくれた、実行委員長補佐・副実行委員長・そして各局長12名のみんな、本当にありがとう！後夜祭のステージからみんなで見たあの景色は、一生の宝物です。

僕たちで過去一の高専祭、作り上げれたのではないでしょうか!!

それもまた、来年塗り替えられることを期待して、結びとさせていただきます。

頑張れ！後輩!!

ロボコンの結果報告

沖縄高専ロボット
製作委員会
伊志嶺 孝太

こんにちは。沖縄高専ロボット製作委員会の伊志嶺孝太です。僕たちは主にNHKが主催する「高専ロボコン」に出場するロボットを作っています。毎年異なる競技テーマが発表され、今年は、吊り下げられたフルーツがフィールド上にあり、それをロボットが回収して点数を競うという競技でした。競技テーマが発表されると、アイデア出しを行い、一からロボットを作っていきます。

九州沖縄地区大会では、沖縄高専からA・Bの２チームが出場しました。Aチームは琉球獅子舞をモチーフに、操縦者の手の動きと連動するロボットで準決勝まで勝ち進み、技術賞と「全国大会出場枠」を頂きました。Bチームは最速でフルーツを回収し、高得点をとり、優勝を目指す、ロボットでしたが、トラブルにより予選敗退となってしまいました。

全国大会は、全27チームが出場し、１回戦目は通信トラブルに見舞われる中で勝利、２回戦目は接戦でしたが最後の10秒で逆転され負けてしまいました。表彰式では、獅子舞がフルーツを食べる姿が評価され、「アイデア賞(文部科学大臣賞)」を頂きました。

僕は今回Ａチームの選手として参加し、ロボットの足回りを設計させてもらいました。大きな設計は初めてで先輩方の意見も参考にし、チーム皆の協力で完成させることができました。全国大会に出場したという経験に自信を持ち、これからは、自分も頼もしい先輩になれるように頑張っていきます。

地区大会の会場で調整するBチーム

試合中（フルーツを取るロボット）

閉会式後のロボットと選手の写真

応援席からの会場内の様子

左からチームリーダー：宮里鷹翔、制御担当：当宮里彰吾、操縦担当：伊志嶺孝太

試合中（操縦者とロボット）

全国大会のピットでロボットにうーとーとーしている写真

学生の活躍

高専体育大会における水泳部の大会報告

総合科学科／高専大会水泳競技・九州沖縄地区代表　和多野（わたの）大（だい）

令和５年７月 15 日、長崎県佐世保市で行われました第 60 回（令和５年度）九州沖縄地区高専体育大会の水泳競技において、情報通信システム工学科２年の比嘉徠日さんが、男子 100m 背泳ぎで２位・男子 200m 個人メドレーで３位となり、九州沖縄地区予選を通過し、８月 25・26 日に長野県長野市で開催されました、第 28 回全国高専体育大会水泳競技に出場いたしました。水泳部は、平成 23 年度から今年度まで、12 年連続での全国高専大会出場権獲得（令和２年度は大会中止）となりました。

専門種目ではない男子 200m 個人メドレーは全国の舞台では予選 14 位で決勝進出はなりませんでしたが、本命である男子 100m 背泳ぎでは、出場 24 名中３位で予選を通過、決勝へとコマを進めました。

決勝では比嘉さんをしのぐシーズンベストを持つ選手が４名出場しており、表彰台をかけて熾烈な争いが展開されました。50m の折り返しを２位でターンし、大きな期待がさらに高まったものの、他高専ライバル選手の激しい追い上げを受け、残り５m で比嘉さんを含む３名が２位争い横一列の激戦！猛追するライバル選手にゴール直前で紙一重でかわされ、比嘉さんは３位選手から０秒 29 差の４位でフィニッシュしました。

初の全国大会での表彰台は、来年度以降の大会に持ち越されましたが、自己ベストにあと 0.01 秒と迫る会心の泳ぎで全力を出し切った比嘉さんは、悔しいながらも納得と充実の表情でした。

今年度、全国の表彰台まで、コンマ３秒まで近づきました。来年度の全国高専大会は、北海道が舞台！北の大地で、南の島の選手の躍動を、楽しみにしたく思います。

専攻科及び九州大学の連携教育プログラムの紹介

専攻科長　高良（たから） 秀彦（ひでひこ）

専攻科の後期では、講義および特別研究などを通じて、専門分野および異なる分野において、より深い知識、実践性および創造性を修得しました。また、企業等での長期インターンシップに参加して、将来の進路への目標を明確にした学生もいました。

特別研究においては、立案した研究計画を自主的に遂行して、学んだ知識を総合して問題解決を行い、１月に特別研究発表会を行いました。また、特別研究で得られた成果を学会等の学外へ向けて多数発表しています。その一つとして、12月に琉球大学工学部との研究交流発表会が開催されました。専攻科生が他機関の方々と意見を交流することにより、技術者・研究者としてのスキルが向上できたと思います。また、オンラインだけでなく対面での学会発表等も多数ありました。このように、今年度はコロナ禍の影響が徐々に薄れて、より活発に研究活動が行われたと思います。

今年度は専攻科から２年生28名全員が修了して新しい道へ踏み出します。専攻科で修得したことに自信を持って、今後の進路へ向かってください。また、来年度から新たに29名の新１年生が専攻科に入学します。新１年生と新２年生の皆さんも、知識、技術、実践性および創造性の修得に励んでください。

昨年の４月より、高専専攻科と九州大学が連携する「九大工学部・九州沖縄９高専連携教育プログラム」が始まりました。このプログラムは、九州沖縄地区９つの高等専門学校の各専攻科と九州大学工学部「融合基礎工学科」が連携・協力して多様化する課題に適切に対応する人材を育成しています。本プログラムでは、履修者は高専専攻科と九州大学の双方に在籍することになります。プログラム所定の課程を修了した者は、高専専攻科から修了証書ならびに九州大学からの卒業証書（学士の学位記）が交付されます。さらに希望者へは大学院総合理工学府への優先的入学の機会が与えられる予定です。令和６年度、沖縄高専から３名が本プログラムに入学します。両方の学校での学びを楽しみながら積極的に取り組んでほしいと思います。
本プログラムの詳細については下記ホームページをご覧ください。

九大工学部・九州沖縄９高専連携教育プログラムホームページ

https://renkei.kyu-kosen-ac.jp

就職・進学活動を終えて［本科5年生］

機械システム工学科

田中（たなか） 晨楽（しんら）

2019 年の春に入学し、気がつくと卒業の季節がやってきました。これまで生活してきた故郷を離れ、この地で5年間を過ごすことに当初は不安もありながら、これから経験するであろう数多くの出来事に対し、期待に胸を膨らませていたことを鮮明に覚えています。

寮での生活も、コロナ禍で通学ができなかった時も、高専祭の実行に携わったことも、辛かったことや楽しかったことの全てが私の大切な思い出です。

あと2年間は専攻科で過ごすことになりますが、思うと入学時に想像していた将来の自分と今の自分では大きくかけ離れているなと感じます。眞喜志治先生と小学校の頃にお会いしてから入学まで「私は航空整備士を目指すんだ！」と意気込んでいましたが、学びを続ける中で、考えていた将来像と自分の思いとの間にギャップを抱くようになり、結果的に就職ではなく進学を選びました。ですが、道を間違えたとも思っていませんし、後悔もしていません。この5年間で機械分野に関し、多岐に渡って勉強してきました。決して真面目な学生ではありませんでしたが、初めて知る技術や働き方、そして学んだことを課題に対してどのように活かすかを学ぶことができました。これらは私にとってとても大切な財産だと思っています。だからこそ、専攻科での2年間で自分の本当に好きなこと、熱中して取り組めることを模索していきたいと考えています。漠然な目標ではありますが、何事にも恐れずチャレンジする精神を心に留め、これからの1日1日を大切に過ごしていきます。

最後になりましたが、このような私を様々な面からご指導いただいた教職員の方々、時には笑い、時には助け合いながら5年間過ごしてきた仲間たち、何よりも遠方から手厚く支えてくれた家族に深く感謝申し上げ、結びといたします。

情報通信システム工学科

小濵（おばま） 就（なりと）

僕は来年から、東京大学工学部機械情報工学科に編入します。

編入の動機としては、「就職したくないから」と、「学生ロボコンがしたいから」の2つです。

東京大学への編入を決めたのは3年の春休みで、それから半年間はロボコンをしていたので、編入勉強を本格的に始めたのは4年の 12 月からでした。東大に編入するといっても、どういう学科があってどういう試験問題が出るのか、何も情報がない状態からのスタートだったので、最初は情報を集めるのに苦労したことを覚えています。僕は編入体験談や、ほかの大学に編入する仲間から情報を収集しました。

目安としては、情報の上位5番くらいの人が4年の4月から勉強を始めれば、東大編入は十分に狙えると思います。また、今だから言えることかもしれないですが、僕は東大に落ちても、受けたことを後悔することはなかったと思います。進路に迷っている人がいれば、東大を目指すというのは決して非現実的な選択肢ではないということを伝えたいです。

今、編入を考えてる後輩がいれば、とりあえず TOEIC を勉強するのをおすすめします。時間がないなら何も勉強しないでいいので、いったん TOEIC を受けてみるのをおすすめします。

メディア情報工学科

桑畑（くわはた） 朋弥（ともや）

私は来年度から豊橋技術科学大学に編入します。進学か就職のどちらにするかを決めたのは3年生の終り頃で、具体的な進路先は決まっていませんでした。可能ならば推薦で受験したいと考え、4年生の成績を上げるよう努力して、なんとか上位 20% の成績で4年生を終えることができました。初めは沖縄高専の専攻科を推薦で受けるつもりでしたが、4年の 11 月頃に同じ進学希望の友達から豊橋技術科学大学の存在を教えてもらい、自分がしたいことと、県外の大学で環境を変えて生活してみたい、という周りと比べるとだいぶ軽い理由で進路が決定しました。自分の進路活動は、計画性がないので参考になるか分かりませんが、なるべく早めから大学や企業を調べて選択肢を増やして、後々進路先を決めていく方針で進路活動を進めていました。振り返ってみると、4年生の過ごし方が進路活動において重要だと感じます。5年生は卒研で多忙なため4年生の内にある程度計画を立てておいて、それに必要な実績作りや資格取得、試験勉強やインターンシップに参加するといった取り組みが、進路先の幅を広げてくれるので、やっておいて損はないと思います。進路活動中の皆さんの参考になりましたら幸いです。

生物資源工学科

當間（とうま） 奈央（なお）

私が高専に入学を決めたのは、「いい企業に就職することができる」というのを聞いたことがきっかけでした。そのため、進路を決める際も進学という選択肢はあまり考えておらず、早い段階から遠隔で行われていた合同会社説明会などに参加することで、就職活動にむけて心の準備をしていました。4年生でのインターンシップでは、入社をきめた会社に参加をすることができ積極的に質問をすることや周りとの交流を心がけ、貴重な体験にすることができました。

しかし、実際に就職活動を始めてみると新型コロナウイルスの流行や遠隔授業など、想像していたのとは違う学生生活の中で「学生時代に力を入れたこと」も「自分自身の強み」も分からなくなり、就職活動でのエントリーシートを書くのに苦戦してしまいました。そういった中でも、周りのサポートは凄く大きな力になり、自分自身を見つめなおすことができる良い機会になったと思います。本当にありがとうございました。

そんな私が就職活動を終えて思うことは、早めの心の準備が肝心だということです。高専生活は、あっという間に過ぎてしまいます。今はまだいいかなと思わずに少しでも興味があるなら軽い気持ちでも企業説明を覗いてみることが後々の自分にいきてくると思います。これから就活を迎える皆さん、今ある時間を大切にして頑張ってください。応援しています。

就職進学活動を終えて［専攻科2年生］

機械システム工学コース
嘉手納 悠（かでな ひさし）

他の修了生の皆さんも同じことを書いているかもしれませんが、沖縄高専本科に入学してから、７年の月日が経ちました。中学校を卒業した当初の私は、７年間も在籍することになるとは考えてもいませんでした。また同時に、大学院に進学することも考えてはいませんでした。これは、本科時代に専門科目を勉強していく中で、興味のあることや将来の夢などが変わってきたことが要因でした。

大学受験がない分、興味のあることや、熱中できることを見つけることができ、それに没頭できる良い環境だったと感じています。そして将来のことについて、ゆっくりと時間をかけて考えることができることも大きなメリットだと思います。それでも、本当にあっという間に過ぎ去ってしまったという印象です。

後輩の皆さんには、ぜひ今この瞬間を大切に過ごして欲しいと思います。そして専攻科には、４コース合同で地域課題解決をテーマとした講義があるので、ぜひ積極的に取り組んでみてください。地域の方や、他大学との交流を通して、自身の視野を広げる良い機会になると思います。

最後になりますが、在学期間ご指導いただいた先生方、温かいサポートをし続けてくれた両親、兄弟に感謝を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

電子通信システム工学コース
上地 格（うえち いたる）

就活活動を終え、関東での新たなスタートが決まりました。この就職活動では、面接やエントリーシートの作成に苦労しながらも、様々な企業の情報を調べ、将来を真剣に考える貴重な時間を過ごしました。その結果、関東での新たな挑戦をすることになり、その準備を進めています。

沖縄高専での学生生活は、専門的な知識や技術を学ぶだけでなく、先生方や周りの仲間たちとの触れ合いや協力し合いの中で、多くのことを学びました。特に、先生方からの温かいサポートと励ましは、私の成長に大きな影響を与えました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、新たな職場での挑戦が待っています。この新たな環境で、これまでの学びや経験を活かし、成長していけるように努力していきたいと思います。これまでの学びと先生方からのご指導に感謝しつつ、新たな一歩を踏み出していきます。

７年間本当にお世話になりました。

情報工学コース
宮里 晃輔（みやざと こうすけ）

沖縄高専に 2017 年に入学し、今年卒業する運びとなりました。入学当初は５年という期間が長く感じられましたが、専攻科に入学しあっという間に７年が経ってしまいました。中学卒業後から親元を離れ、進級条件も厳しい中で生活するのはとても大変でしたが、今では沖縄高専に入って良かったと思っています。

専攻科修了後は就職か大学院進学が主な選択肢としてありますが、私は大学院進学する予定です。私が進学を決めた理由はいろいろありますが、一番の理由は今後の選択の幅を広げるためです。大学院の修士課程を終えた後は博士か就職が残っているため、まだ将来のイメージが固まっていない自分にとっては、どちらかの選択肢は潰したくありませんでした。進学活動で苦労したことは、英語の勉強です。特に大学院では英語の論文を書いたり読んだりするため、ほとんどの大学院で英語力が求められます。私は最も苦手な科目が英語だったためとても苦労しました。もし後輩の方にアドバイスできるのであれば、本科からの英語の授業をまじめに受けるのが大切だと伝えたいです。

進学活動の時期は本当に多くの人にお世話になりました。辛いときや苦しいときでも励ましてくれた家族や友人、惜しまずサポートをしてくれた先輩や先生方には心から感謝しています。時にはご迷惑をおかけすることもあったと思いますが、今日まで変わらず支えていただき、本当にありがとうございました。

生物資源工学コース
辺土名 勇樹（へんとな ゆうき）

私は、総合化学メーカーに内定を頂き、来年度から社会人となります。

就職活動では、早めに取り組んだことが自分に自信をもたらし、キャリア形成の大きな一歩となりました。また、企業経験を持つ教員からの助言は、将来の夢に向かう上で非常に重要なものでした。後輩これから就職活動を始める後輩へのアドバイスは、みなさんの選択と努力次第で、これからの学生生活で得られる機会は無限大です。高専での学びや出会いは、皆さんの未来に大きな影響を与えることでしょう。何事にも積極的に取り組み、自分自身の可能性を信じてください。教員方や先輩、同級生との出会いを大切にし、多くの人からの助言や知識を吸収することで、より充実した学生生活を送ることができるはずです。

また、進路を決める際には、高専で培ったスキルや人脈を存分に活用してください。自分の興味や強みを理解し、それを活かせる進路を選ぶことが重要です。それらを実行するには困難や挑戦が必要かもしれませんが、その一つ一つを乗り越えることで、皆さんはさらに成長することができると思います。

最後に、高専生活で出会えた教員の方々、共にすごした学友たちをはじめ沖縄高専に関わる様々な人々の助けをもらいながら、７年間を楽しく過ごせたことに私は感謝しています。

■就職・進学・志願状況

【令和６年３月卒業予定者の進路状況】

令和６年１月１日現在

	区分	学科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
	卒業者数※２	33	43	37	33	146
進学状況	進学希望者数	13	19	11	13	56
	合格者数	9	16	8	12	45
	うち専攻科進学者数	8	6	4	10	28
	うち３年次編入等進学者数	1	10	3	2	16
	うち専門学校・その他進学者数	0	0	1	0	1
	進学決定率 （進学者数／進学希望者数）	69.2%	84.2%	72.7%	92.3%	80.4%
	進学先※１	沖縄工業高等専門学校専攻科（8） 豊橋技術科学大学	沖縄工業高等専門学校専攻科（6） 豊橋技術科学大学（4） 長岡技術科学大学 東京大学 千葉大学 埼玉大学 琉球大学 熊本大学	沖縄工業高等専門学校専攻科（4） 豊橋技術科学大学 東京国際工科専門職大学 北見工業大学 代々木アニメーション学院福岡校	沖縄工業高等専門学校専攻科（10） 長岡技術科学大学 高知大学	
就職状況	就職希望者数	20	24	26	17	87
	就職者数	18	18	22	17	75
	就職率 （就職者数／就職希望者数）	90.0%	75.0%	84.6%	100.0%	86.2%
	就職先企業名※１ （県内） 県内に本社のある企業	アドバンス電気工業株式会社	沖縄セルラー電話株式会社 MRO Japan 株式会社 株式会社プロトソリューション	株式会社ビーンズラボ（2） かまちょっかい株式会社 株式会社ヴィッツ沖縄（2）		
		計　1　名	計　3　名	計　5　名	計　0　名	県内計　9　名
		内定者に占める割合 6％	内定者に占める割合 17%	内定者に占める割合 23%	内定者に占める割合 0％	内定者に占める割合 12%
	就職先企業名※１ （県外） 県外に本社がある企業	サントリープロダクツ株式会社（2） ANA ラインメンテナンステクニクス株式会社 株式会社情報技研 富士電機株式会社 矢崎総業株式会社（2） ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社 株式会社メイテックフィルダーズ アマゾンジャパン合同会社 キヤノンメディカルシステムズ株式会社 DMG 森精機株式会社 水 ing 株式会社 東空販売株式会社 NOK 株式会社 ANA スカイビルサービス株式会社 パーソルクロステクノロジー株式会社	株式会社 SunAsterisk 株式会社 JAL エンジニアリング 独立行政法人 国立印刷局 株式会社アテック 出光興産株式会社（3） 日本オーチス・エレベータ株式会社 NTT データソフィア株式会社（2） エスアイエス・テクノサービス株式会社（2） 株式会社第一テクノ 株式会社ビクソン 東芝 IT サービス株式会社	西日本電信電話株式会社 株式会社日立ハイシステム 21 エスアイエス・テクノサービス株式会社 NTT データソフィア株式会社 フラー株式会社 株式会社ハイマックス Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社 株式会社アルトナー（2） 株式会社ヴィッツ 株式会社トヨタシステムズ 株式会社クリエイティブキャスト 株式会社メイテックフィルダーズ 三菱電機エンジニアリング株式会社 ピクシブ株式会社 株式会社 FIXER アマゾンジャパン合同会社	株式会社土木管理総合試験所 株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング 三洋化成工業株式会社 富士フイルム株式会社 旭化成株式会社（4） サントリーホールディングス株式会社（2） 株式会社メンバーズ 雪印メグミルク株式会社（2） 株式会社常磐植物化学研究所 株式会社ヤクルト本社 スターバックスコーヒージャパン株式会社 株式会社レゾナック	
		計　17　名	計　15　名	計　17　名	計　17　名	県内計　66　名
		内定者に占める割合 94%	内定者に占める割合 83%	内定者に占める割合 77%	内定者に占める割合 100%	内定者に占める割合 88%

※１　同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（　）内に示しています。
※２　卒業予定者数には留学生を含む。

【令和６年３月修了予定者の進路状況】

令和６年２月１日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
	修了者数	8	10	5	5	28
進学状況	進学希望者数	1	0	2	1	4
	進学者数	1	0	2	0	3
	うち大学院等進学者	1	0	2	0	3
	うち専門学校・その他進学者	0	0	0	0	0
	進学決定率（進学者数／進学希望者数）	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	75.0%
	進学先※１	豊橋技術科学大学大学院		九州工業大学大学院 北陸先端科学技術大学院大学		
就職状況	就職希望者数	7	10	3	1	21
	就職者数	7	9	2	1	19
	就職率（就職者数／就職希望者数）	100.0%	90.0%	66.7%	100.0%	90.5%
	就職先企業名※１（県内）県内に本社のある企業	株式会社アクロラド	JTA インフォコム株式会社 日本トランスオーシャン航空株式会社 沖縄セルラー電話株式会社			
		計　1　名	計　3　名	計　0　名	計　0　名	県内計　4　名
		内定者に占める割合 14%	内定者に占める割合 33%	内定者に占める割合 0％	内定者に占める割合 0％	内定者に占める割合 21%
	就職先企業名※１（県外）県外に本社がある企業	SUBARU テクノ株式会社 セイコーエプソン株式会社 株式会社資生堂 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 株式会社 SUBARU シャープ株式会社	NTT 東日本グループ会社 株式会社レッドクリフ KDDI 株式会社 横河ソリューションサービス株式会社 株式会社トヨタシステムズ 株式会社アイ・エス・ビー	デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社 日産自動車株式会社	DM 三井製糖株式会社	
		計　6　名	計　6　名	計　2　名	計　1　名	県内計　15　名
		内定者に占める割合 86%	内定者に占める割合 67%	内定者に占める割合 100%	内定者に占める割合 100%	内定者に占める割合 79%

※１　同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（　）内に示しています。

後学期行事予定

卒業式・専攻科修了式

3月19日（火）

入学式

4月3日（水）

（問合せ先）
沖縄工業高等専門学校　総務課総務係
TEL：0980–55-4003　Mail：ssoumu@okinawa-ct.ac.jp